

日本ミシェル・アンリ哲学会

第九回研究大会 プログラム

今回の第九回研究大会は、シンポジウム・テーマを会員のみなさんから募集して開催いたします。選ばれたテーマは「アンリと文学」。しかし、テーマ通りにパネリストを選出することには困難が伴い、企画担当スタッフが頭をひねった結果、テーマを「文学」から、「言語」、「語り」、「表現」などへ拡張して設定し、以下のようなパネリストの方々にお集まりいただきました。

村松正隆氏には、アンリの小説『王の息子』を中心にして、小説という領域におけるアンリの言語実践のあり方について吟味していただきます。吉永和加氏には、アンリ言語論における言語の二重性と、表現することの限界について論じていただきます。そして、古荘匡義氏には、最晩年のアンリの思想をたどりながら、聖書の言葉を用いて思索を紡ぎ出すアンリの語り方について考察していただきます。アンリの小説からキリスト教思想までを「言語」、「語り」、「表現」というテーマで追う今回のシンポジウム、アンリという思想家、および、その思想にとって「言葉」が持つ意味を再考するよい機会となるでしょう。

さらに、シンポジウムに先立っては、お二人の研究発表が企画されています。一つは、アンリの思想を通して物語創作の心術を導き出そうとするもの、もう一つは、アンリの芸術論の根底に共同体論を据えることで、アンリの芸術論を再考しようとする試みです。

日本ミシェル・アンリ哲学会の研究大会は会員以外の方にも開かれています（参加無料）。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

期日：2017年6月10日（土）

会場：同志社大学今出川校地 良心館3階 RY316教室

（良心館へは地下鉄今出川駅北改札から直接アクセス可能）

【研究発表・午前】

11:00～11:50

川邊一外（無所属）

「現象学的創作の心術——ミシェル・アンリのパ
トスの共同体を手引きとして」

11:50～12:20 総 会

12:20～13:40 昼 食

【研究発表・午後】

13:40～14:30

山本美咲（広島市立大学）

「アンリの芸術論における「同時性」」

【シンポジウム】

14:40～18:00

テーマ：「アンリと言語／表現／語りの問題」

パネラー

村松正隆（北海道大学）

「アンリの小説世界——『王の息子』を中心に」

吉永和加（岐阜聖徳学園大学）

「身体の言語：アンリにおける言語論の可能性」

古荘匡義（龍谷大学）

「キリストの語り、アンリの語り」

司 会

村松正隆（北海道大学）

日本ミシェル・アンリ哲学会事務局

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学教育学部 川瀬研究室内

Tel/Fax : 0852-32-6284 E-mail : kawase@edu.shimane-u.ac.jp

ホームページ : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~michelhenry/>